

特定非営利活動法人日本放射線腫瘍学研究機構 (NPO-JROSG)

平成19年度 第2回理事会

1. 開催日時：平成19年12月15日(土) 13:00-14:00

2. 開催場所：福岡国際会議場(JASTRO会場) 3階 3E

3. 出席者(委任状提出を含む) 13名

4. 出席者氏名 9名

三橋紀夫、早川和重、小口正彦、山田章吾、田中良明、秋元哲夫、辻井博彦、池田 飯、
中野隆史

5. 欠席者のうち委任状提出者 4名

加賀美芳和、晴山雅人、早淵尚文、平岡真寛、

6. 欠席者氏名 3名

西村恭昌、不和信和、山下 孝

7. 審議事項

- | | |
|-----------|----------------------------|
| (1) 第一号議案 | 議長の選任 |
| (2) 第二号議案 | 平成19年度第1回理事会議事録の確認 |
| (3) 第三号議案 | 会員数ならびに臨床試験参加施設数について |
| (4) 第四号議案 | 平成19年度上四半期の会計報告について |
| (5) 第五号議案 | 寄附ならびに賛助会員について |
| (6) 第六号議案 | 臨床試験審査の進捗状況について |
| (7) 第七号議案 | 運営委員会ならびに教育・広報委員会の活動状況について |
| (8) 第八号議案 | 部位別の治療成績調査の進捗状況について |
| (9) 第九号議案 | その他 |

7. 議事の経過の概要及び議決の結果

(1) 第一号議案 議長ならびに議事録署名人の選任

議長に三橋紀夫氏を議長に選出した。また、議長より辻井理事ならびに山田理事を議事録署名
をお願いするとの提案があり、全員異議なくこれを承認した。

(2) 第二号議案 平成19年度第1回理事会議事録の確認

第1回理事会議事録が確認された。議事録署名人(西村理事ならびに平岡理事)
の署名・捺印済みのため、これをもって正式な議事録として事務局に保管するこ

とにした。

(3) 第三号議案 会員数ならびに臨床試験参加施設数について

資料2に基づき理事長から12月12日現在個人会員225名、賛助会員14社、臨床試験参加施設110施設との説明があり了解された。今年度中に賛助会員が2社増加する可能性があるとの説明が理事長からあった。

また、今年度も賛助会員ならびに募金趣意書を企業に送付した旨の報告がされた。理事各位も賛助会員ならびに寄付金を増やす努力をすることが確認された。

(4) 第四号議案 平成19年度上四半期の会計報告について

資料3に基づき平成19年度上四半期の経常収支報告ならびに管理費とくに總會にかかわる印刷経費が増大している旨の説明があり、承認された。

関西がんサーセラピストが開催した市民公開講座への協賛金は普及啓発事業費として処理することが確認された。

また、市民公開講座への後援の基準を早急に決めることにした。

(5) 第五号議案 寄附ならびに賛助会員について

資料4に基づき賛助会員リストが確認された。

(6) 第六号議案 臨床試験審査の進捗状況について

肺がんグループから提出されていたプロトコールがJROSG 07-1として正式採択され症例集積に入ったことが報告された。

(後日に西村理事から上記のJROSG 07-1まだ正式な採択とはなっていない旨の報告があった。)

小口理事からJROSG 04-2は症例集積が終了し経過観察に入ったこと、またJROSG 03-2は既に2編の論文にまとめ発表したとの報告があった。

(7) 第七号議案 運営委員会ならびに教育・広報委員会の活動状況について

運営委員会活動報告：秋元担当理事から以下の報告があった。

- 1) これまでにメール会議を含め4回運営委員会を開催した。
- 2) 会員専用ホームページの作成を行っており、近く公開すること。コストの点から会員共通のパスワードでアクセスする方式になるだろう。
- 3) 会員専用ホームページが完成したら、会員専用ホームページを使って部位別専門委員の募集を行う。

教育・広報委員会報告：三橋理事長ならびに小口担当理事から以下の報告があった。

- 1) 山下委員長が多忙であるため、小口理事に実務を行ってもらうことになった。
- 2) 関西がんサーセラピストの会が主催した市民公開講座を後援した。
- 3) 池田理事から提案のあった教科書の執筆をJROSGとしてどのように関わっていくか、早急に、池田理事、出版社、小口理事、秋元理事で詰めてもらうことになった。内容に現在部位別委員会で行っている治療成績を盛り込むことを考慮している。

(8) 第八号議案 部位別の治療成績調査の進捗状況について

晴山第21回JASTRO大会長から依頼のあった部位別治療成績の調査の進捗状況について各委員長から方向性ならびに進捗状況について以下の報告があった。

- 1) 脳・中枢神経系腫瘍：悪性神経膠腫ならびに神経膠芽腫の治療成績についてアンケート調査をすべく用意を進めている。
- 2) 頭頸部腫瘍：委員長から報告がないため理事長から進捗状況を再度問い合わせる。
- 3) 消化器癌：委員会をがん治療学会の際に開催して検討を始めている。
- 4) 肺・縦隔腫瘍：早期肺癌については大西先生がデータをまとめている定位放射線治療の予後調査を行い、最終結果を報告する。進行肺癌については施設ごとに治療方針が異なるので調査は行わずに、現在進行している臨床試験の結果をまとめることにする。
- 5) 乳腺腫瘍：複数年の調査は負担が大きいとの判断から、1997年の単年度として、乳房温存療法を行った浸潤癌症例対象として、エクセルで調査票を作成して調査を開始している。現在1施設から回答があるだけだが、2月末日までに締め切り、2月に解析を開始する。
- 6) 婦人科腫瘍：2001年から2003年までの子宮頸癌症例について化学放射線治療成績について論文を作成し、すでにActa Oncologicaに掲載されているので、この成績を報告する。子宮体癌については調査研究を行わない。
治療成績調査とは別に部位別委員会としてJGOGの子宮頸癌CCRTの第II相試験に参画して治験の条件に合う施設を選定した。この臨床試験をJGOGとJROSGとのintergroup studyとしてもらうようJGOGと交渉することにした。
- 7) 泌尿器腫瘍：前立腺癌についてはJROSGで行った1997年から2003年までの症例調査の解析が終了し論文として投稿中であるためこの治療成績を用いる。辜丸腫瘍の治療成績に関しては、放射線治療の適応範囲が非常に狭くなってしまったため治療成績の調査は行わない。浸潤性膀胱癌については治療成績のアンケート調査をおこなう。
- 8) 悪性リンパ腫・血液腫瘍：2004年以降はリツキサン併用が標準治療となったために、過去のデータをあわせることは意味がないことから、2000年度までは池田班のデータを用い、2000年から2004年までの症例の治療成績を再調査することにした。
- 9) 小児癌：横紋筋肉腫、神経芽腫全国多施設治療研究に関わり、ウイルス腫瘍、ユーイング肉腫、再発ALL、ホジキンリンパ腫治療研究への協力を行っている。また小児がん長期フォローアップ体制構築に関して積極的に関わる体制を取っている。治療成績調査活動状況報告に関しては、未着手だが、まず国立成育医療センター小児がん治療成績を小児腫瘍科、外科などと共同で策定する予定で

ある。

(9) 第九号議案 その他

経済的基盤の確立、事務局のあり方について意見交換を行った。

データセンターをどのように構築するか意見交換し、北里大学のデータセンターと理事長が話し合いをする方向で検討することになった。

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成19年12月25日


議長

三橋 聡夫 

議事録署名人

辻井 博彦 

議事録署名人

山田 章吾 

以上